

ハッスル!

2004(平成16)年12月10日鑑賞(ユウラク座)



監督・製作＝アンドレス・ヴァイスブルス／出演＝アントネーリャ・リオス／ネストル・カンティリャーナ／フアン・パブロ・ミランダ／アレハンドロ・トレホ／エデュアルド・バリル／特別出演＝アニータ・アルバラード（ハピネット・ピクチャーズ、メディアボックス配給／2003年チリ映画／115分）

……天六の「ユウラク座」で上映されたチリ映画という珍しいもの。「過激なセクシー描写」という前宣伝そしてチリの「秘宝」女優の出演が目玉！さらに日本で一時期有名になったあのアニータの映画初出演とのことだったが、期待したほどの「露出度(?)」はなく、まずまずのストーリー展開。韓流に比べれば、チリ版の「純愛ドラマ」はまだまだだが、それなりに……？

ユウラク座とホクテンザ1、2

天六にあるユウラク座とホクテンザ1、2によく行くようになったのは、朝日新聞を定期講読したことに伴って、鑑賞券をもらうようになったため。ここの地下にあるもう1つの映画館では成人映画をやっていることもあり、マイナーな場末の映画館というイメージが強いが、時々「あっ」と思うような映画をやっているし、韓国映画特集や中国映画特集も時々はある。そんなユウラク座で今回やっていたのは、「過激にして、大胆！ 灼熱のチリムービー！ 登場!! 究極のエロチシズムの洪水が、五官のすべてを直撃する！」という宣伝文句、そして露出度満点の派手なポスターがやけに目につく、チリ映画の『ハッスル!』

事前知識ゼロのまま自転車を走らせて、夜8時からの上映時間に間に合うように行ったが、観客は10名足らずとガラガラ……。さて映画の出来は……？

主演女優はチリの「秘宝」!

この作品に、「純愛劇のヒロイン」でありかつ「魔性の女」でもあるグラシア

役で登場するのは、チリの秘宝とよばれているアントネーリャ・リオス。日本人の私には、南米のチリ人の顔立ちの美しさはよくわからない。このグラシアもキレイといえばキレイだが、それほど魅力的とは思えない（失礼……）。

全身にクリームを塗って必要最小限を隠しながら、ステージで踊る姿はたしかに官能的だが、前宣伝のエロチシズムもこの1シーンだけで、後は意外にまじめな純愛もの……？ もっとも彼女はかなりしたたか（？）で、チリの首都サンチアゴの裏社会を牛耳っているボスのドン・パスカル（アレハンドロ・トレホ）のオンナとして生きていたから、そうスナリと純愛が実現できるはずはなし！

主人公は健気な兄弟

チリの田舎町からサンチアゴに出てきて、何とかのしあがろうと懸命の努力をしているのは、兄のシルビオ（ネストル・カンティリャーナ）。弟のビクトル（ファン・パブロ・ミランダ）は、シルビオに学費を出してもらって学校に通いながらも、つつい大人の世界をのぞいてしまう。今日は、ビクトルの17歳の誕生日であるため、シルビオは弟を自分の職場（？）であるナイトクラブに案内して、はじめてのオンナを体験させてやることに。ところがビクトルは、ここでもあろうに、舞台上がってセクシーなダンスを披露したグラシアにホれてしまった。ここからコトが面倒になり、ストーリーが展開していくことに……。

シルビオは意外な能力の持ち主

裏社会の中で1人の若者が生きてのし上がっていくのは当然大変なこと。しかしシルビオはナイトクラブで偶然発生したモメ事を意外にも度胸よくおさめたため、その能力をボスに認められ、ボスの運転手として出世した。周りの部下たちはこれを快く思わないものの、シルビオは自分の能力を信じ、一層ボスのために尽くしたから、ボスの信用はますます厚くなっていった。しかし……。

問題はいつも女！

ダンサーのグラシアは度胸満点の女！ ボスの女でありながらも少年のようなビクトルからひたむきな愛情を示されると、つついそれに対しても母親的にや

さしく対応し、さらに意外にカッコいいシルビオに対しては、ボスでは満たされない若者同士の愛と情熱を……。したがって、当然ながら許されない最後の一線を越えることになったから、そりゃヤバイ……。しばらくはボスの目をごまかしながら、超リッチなお楽しみを続けていたが……。

もう1人の話題はアニータ！

2002年以降、日本のマスコミを賑わせた女性がいた。これは、青森県住宅供給公社の元職員がチリ人の妻アニータの魅力に負け、彼女に貢ぐため(?)に14億円もの大金を横領したという前代未聞の大事件！ これによってこの元職員は懲役14年という実刑判決を受けた。アニータへの民事訴訟と強制執行は「スゴ腕」といわれた公社側の後藤孝典弁護士の努力もあって効を奏し、サンチアゴにある豪邸が競売にかけられ約7500万円で競落されたが、弁護士費用や諸費用にそのほとんどが費消され、公社の実質回収額はほんのわずか。他方アニータはこの事件によって一躍有名人となり、法外な価格でヘアヌード写真集まで出したうえ、この映画への初出演が決まったとのこと。私は別にこのアニータには興味はなかったし、弟のビクトルをオトコにする役でスクリーンに登場する彼女をみても、格別の魅力は感じなかった。いくら豊満な胸が売り物でもあの顔では……？

ヤミ社会には常に対抗馬が！

今はヤミ社会を牛耳っているボスのドン・パスカルだったが、そこには常に対抗馬がおり、チャンスさえあればこのドン・パスカルを亡きものにと考えていた。それがドン・マルコ(エデュアルド・バリル)。そんなドン・マルコが目つけたのはグラシアとシルビオとのスキャンダル。これをネタにグラシアを脅し、ドン・パスカルの殺害計画が……。さてグラシアはどうするのか？ そして否応なくモメ事の渦中に入ることになったシルビオは……？ さらにグラシアに対して純真に恋したシルビオの弟ビクトルは……？

ヒロインのグラシアを中心としたヤミ社会での攻防戦と、シルビオ、ビクトル兄弟との純愛劇(?)がわかりやすく描かれていく。さてこの映画のラストにはどんな結末が待ち受けているのだろうか？ 2004(平成16)年12月13日記